

家畜損害防止関連情報

◆ 第12回 リードフィーディングの実施

～分娩後、濃厚飼料の増給は3日にキロ～

分娩（ぶんべん）の3～4週間前からリードフィーディングを始めます。濃厚飼料を乾乳期の量から分娩時の量に増やす作業です。

リードフィーディングの目的は、

〈1〉	分娩後の濃厚飼料の増給に耐えられるルーメン微生物叢(そう)の準備
〈2〉	分娩前1カ月で身体が倍増する胎児への栄養供給
〈3〉	胎児の急成長で減少するルーメン容積(乾物摂取量)を補うための飼料濃度の増加
〈4〉	ルーメン絨毛(じゅうもう)の発達促進

——の4つです。

リードフィーディングのやり方ですが、濃厚飼料給与量を高泌乳群で1日4キロ、普通の牛群では1日3キロ程度に増給します。増給スピードは3日で1キロです。

この時、塩分の多い濃厚飼料を増給すると乳房浮腫（ふしゅ＝俗に言う乳房のしこり）ができてしまいます。このような場合には乾乳用配合飼料を用いた方が良いかもしれません。乾乳用配合飼料は、現状に問題がなければあえて使う必要はありません。

分娩後の濃厚飼料の増給方法ですが“牛の状態を見ながら”という、いかにも牛にやさしい増給方法のように聞こえますが、実際は最悪の方法です。

ルーメン微生物にとっては1日に300～400グラムの濃厚飼料の増給が限界です。これを超えるとルーメン環境が大きく変化し、ルーメン微生物叢は壊れてしまいます。

いっぽう乳量は分娩後急激に増加し、エネルギー不足が生じます。この期間が長く続きすぎると肝臓機能が低下し、乳量の低迷や病気の発生につながります。

この急激に増給できないルーメンの事情と、早く増給してもらいたい肝臓の事情のバランスをとる必要があります。しかし1日に300～400グラムの増給など、実際にはやってられません。

そこで今おすすめしているのが3日に1キロの増給です。この増給を分娩後2日からスタートすると、1日乳量30キロの牛なら約3週間、45キロの牛なら約5週間で増給が完了します。その後、ルーメン微生物がその機能を最大限に発揮するために、さらに3～4週間を要します。そこで初めて肝臓の負担が軽減されるわけです。

ただし、分娩前にすでにルーメンや肝臓がおかしくなっている牛群でこの方法を行うと、食えない牛が続出する危険性があります。